

専門情報・資料論Ⅲ (社会)

Special Information & Resources Ⅲ(Society)

2 学期		木曜日		5・6 時限		講義室: 7A203	
担 当 教 員	後藤嘉宏	研究室	513	オフィス		木曜 2 時限目	
科 目 の 概 要	<p>講義科目であるが、文献的な資料の分析を中心に、文系の研究方法を実地に学ぶことを目指し、以下の(1) - (3)の3つを行う。</p> <p>(1) 講義者・後藤が、まず自分なりの研究の方法と、以下の(3)に示した発表の際に必要な事項の整理の仕方を講義する。(2)次に後藤の研究そのものを紹介するが、これは後藤自身が研究を講義形式で説明するのではなく、後藤の著書・論文と、その基になった研究対象の文章を読みつつ、双方を照らし合わせて、後藤の研究を批判的に読み込む作業をして貰う。特に(1)で示したような方法を、私自身、意識的・無意識的いずれの面においても、必ずしも自ら守っていない部分がある。その点の是非も議論となろう。(3)最後に受講生個々の研究テーマ(まだ十分に構想が出来ていなければ大学院受験時の研究計画等でも可)を発表して貰い、相互討論する。その際、(1)の要件に照らして、そのテーマの構想を具体化していく方法等の問題を考えていく。特に日本社会情報学会とマス・コミュニケーション学会という2つの日本学術会議登録学協会の編集委員を通算9年務めた経験から、学会誌において採択・評価される論文の書き方に照らして、可能な限りコメントしていきたい。なお、この(3)は、指導教員とのやりとりの領域を干渉するものではないので、本授業での発表やコメントや批判はあくまでも本授業内のみの「シミュレーション」のようなものと考えて構わない。要するに、ここで学んだものを実際の論文作成に活かすか、参考のみ留めるかは、受講生の自由である。</p> <p>受講人数及び受講生との相談によって、(2)と(3)の比重は変わるが、受講生5名だとすると、それぞれ1回ずつ発表して貰うことを考えている。</p> <p>(2)については、メディアの問題を日本において早期に考察した研究者として、中井正一を取り上げて、後藤は研究している。彼の文章(以下①)や彼についての研究(以下②)の双方を読み、報告者がレジメを書く形で議論して貰う。</p> <p>①中井正一著『中井正一評論集』(岩波書店, 1995年)等、中井正一の著述。 ②拙著『中井正一のメディア論』(学文社, 2005年)。その他、後藤や他の人々の書いた論文・著書等。</p> <p>なお、上記の①②等の資料は、私の手元にあるものについては、報告の際に貸し出す。基本的に拙著を要約し、つぎに中井自身のテキストを通じて、拙著を批判する作業をしてほしい。</p> <p>これら(1)～(3)を通じて、メディアを社会的に捉えるものの見方、あるいは本を批判的に読む力を、徐々にでも身につけて貰いたい。</p>						
授 業 予 定	<p>受講生の人数によって、後藤の研究の紹介部分と受講生の皆さんの研究発表部分との比重は変わるが、受講生が5名程度と想定すると、以下のようになる。なお、受講者の数・及び意向によって、2-6の部分と7-11の部分との比率は適宜増減させ、時間を調節する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンスと方法についての概略説明——上記「科目の概要」(2)で読む資料について相談し、報告の順番、報告の内容を決める。また研究の方法及び「科目の概要」(3)での報告の内容及び形式をどのように整えるかについて、講義形式で説明する。 2. 中井正一の経歴と中井の人生上の時代区分、中井研究の意義について、簡単に解説する(講義形式)。 3. 中井正一と滝川事件・・・松尾尊允『滝川事件』(岩波現代文庫)を参照しながら、拙著の滝川事件と中井の記述を補足・批判して貰う(報告・演習形式)。 4. 中井正一の映画理論・・・拙稿を、中井の全集未収録の映画評等から批判して貰う(報告・演習)。 5. 中井正一と「委員会の論理」・・・中井正一の戦前の代表作を輪読し、意図を討論する。またこの著述について言及した資料を集め、その是非を検討する(輪読を交えた、報告・演習形式)。 6. 中井の晩年と国立国会図書館——中井の晩年の図書館論を彼の前半生での美学・哲学研究と対比的に後藤は検討しているが、そのことの是非の再検討(報告・演習) 7-11. 受講生のそれぞれの研究テーマの発表と、それについての相互討論 						

達成目標	自分の研究テーマを見つめ直すのに役立つ。論文を書くのに必要な議論の組み立て方が実地に分かる。また他者への批判力が向上する。その批判力は、将来的には自分自身を自己批判する力にもつながるはずである。
評価の方法	講義科目であるが、実質演習形式を含む授業であるので、発表と質疑応答の内容と頻度による。特に出席状況を重んじる。最終試験に相当するレポート等は課さない。
教科書または参考書	教科書 後藤嘉宏『中井正一のメディア論』(学文社、ISBN4-7620-1366-8、¥8,400)。ただし高価な本であるので、発表に際して貸し出す。購入するには及ばない。 中井正一著・長田収編『中井正一評論集』(岩波文庫、ISBN:4003319818)も使いたいが、これも原則、貸し出す。
テレビ会議システムの利用	無
その他	受講者が5名程度だと、1人1回2コマ(150分)の時間を使い、学期中に2度の発表となり、ちょうど良い。受講生の増加分に応じて、上記「科目の概要(2)」と「(3)」に相当する部分の配分が変わりうる。